

(様式第4号)

## 上田市美術館協議会 会議概要

1 審議会名	上田市美術館協議会
2 日時	令和2年11月6日 午後13時30分から午後15時45分まで
3 会場	上田市立美術館市民アトリエ・ギャラリー
4 出席者	小林幸雄会長、佐藤聡史委員、武田敦子委員、土屋健治委員、伴美佐子委員、松本透委員、米津福一委員（五十音順）
5 市側出席者	西田館長、荻原総合プロデューサー、柳原政策企画部長、清水館長、山寄館長補佐、小笠原館長補佐、岡田主査、松井主査、清水主任、青木主任、山極主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和2年11月11日

協 議 事 項 等

### 1 開会(会長)

### 2 協議事項

#### (1) コレクションについて

・資料に沿い事務局から概要を説明

(委員) 作品資料の購入費は単年度予算か。購入後に余った予算の取り扱いはどうか。

(事務局) 年間80万円の予算があり、今年度は村上早の作品を購入済みである。残った予算はそのまま決算となり、翌年度に新たに80万円の予算が付くことになる。

(委員) 丸山晚霞記念館も同程度の予算である。年度内に購入に値する作品が無い場合、翌年度に繰り越され新年度予算に合算される。基金を取り崩して作品を購入することは手続きが大変である。購入費での購入は手続きも容易であるため、余った予算を翌年度に繰り越す方法を検討してもいいのではないか。

(委員) 文化振興基金は、毎年積み増しされていくのか。

(事務局) 最近の積み増しはなく、2,600万円で推移してきた。急遽作品購入する際に使用するもので、取り崩した分は、後に一般会計で予算化して基金に戻すことになる。

(委員) 60～70代の作家から30代の若手まで幅広い現役作家がいる中で、美術館として現役作家を取り扱う基準はあるか。

(事務局) 山本鼎版画大賞展という若手の登竜門といわれている公募展では、大賞・準大賞の作品は必ず収蔵している。村上早という新進気鋭の作家の作品は買い増しをしている。

(事務局) 村上早のような20代の作家から大学教授などまで幅広い方から寄贈の話が来る一方で、美術品選定委員会委員からは、美術館として作品をどう生かすのか考えてほしいとの意見が出てくる。美術館としても鑑賞事業や普及事業に生かせる作品の収蔵を進めていきたい。

(委員) 版画大賞展の受賞者については反対意見の出しようがない。現役作家は、年齢幅が広く何十年後かには重点作家なる可能性もある。30～50代の作家の作品を収蔵する場合、実績評価は外せない。実績を点数化することは容易ではないが、作家や批評家は各美術館の収蔵状況を見ているので、現役作家の具体的な選定基準を設けた方がよい。

(会長) 信濃美術館ではどのような状況か。

(委員) どの美術館も同じである。公立美術館はプライベートな美術館とは違うため選定基準を設ける

べきであるが、一方で基準を設けると個性が無くなる危険性もある。

(事務局) 若い芸術家の表現が多様化している中で、美術館としてはどう対応していくべきか。

(委員) 例えば、ビデオやアニメーション技術を用いた作品分野から良い作品が出てくれば、美術館としてこれまでの絵画や彫刻と同様に対応すべき。公募展覧会をやると、論評や展覧会評などの反応が文字として残るため、トリエンナーレ等の実績を元に考えるべきである。

(委員) 表現の多様化が進む中で作品を選定することは、選定委員の意識の表明でもあり、難しいことに取り組んでいると思う。

(事務局) 当初から物故作家の作品を収蔵してきたが、現役作家の作品も収蔵していく方向で考えたい。その場合には、美術品選定委員会にかける前段階として、作品を選定するための具体的な基準を作成しなければならないと受け止める。

(委員) 作品の購入経緯を知りたい。

(事務局) 例えば、平成 27 年に東京都神保町の書店から山本鼎の木版画ブルトヌなどを文化振興基金で購入した。これは、開館記念展で山本鼎を取り上げたことで購入に理解が得られたことによる。中村直人の作品は、購入したもの及び寄託を受けたものである。村上早の 2 作品も選定委員会に諮り購入した。

(委員) 金額交渉したうえで購入しているということによいか。

(事務局) そのとおり。

## (2) 展覧会事業について

- ・資料に沿って事務局から概要を説明

(委員) 展覧会事業は、こういった形で決めているのか。

(事務局) 展覧会によって異なる。オープン当初から 2~3 年間はオープン前から計画したものである。コレクション展や版画大賞展など常設及び定期的なもの他に、プロモーターからの案件もある。育成事業や顕彰作家関係は美術館側が決めるが、それ以外は提案を受けることもあり、ケースバイケースである。夏場は人気がありプロモーターから提案いただくことが多いが、冬場は少なく美術館で企画する状況にある。大体 2~3 年先までは、ある程度は計画している。

(委員) 事業は企画委員会で決めるのではなく、持ち込み企画を含めて美術館で決めているということによいか。

(事務局) そのとおり。

(委員) 平成 26 年度から令和元年度に開催した展覧会のうち、自主事業のものは何か。

(事務局) 山本鼎のすべて展、小松美羽展、森工房「大版画」の全貌、第 6 回山本鼎版画大賞展、新収蔵品展、越ちひろ展、新収蔵コレクション展、白井ゆみ枝展、コレクション展Ⅲ「石井鶴三立体の美」、第 7 回山本鼎版画大賞展、gone girl 村上早展、農民美術・児童自由画 100 年展、コレクション展Ⅰ「中村直人鬼才の表現」である。他館と連携したものでは、NHK 大河ドラマ特別展「真田丸」、見て、感じて、遊ぼう！はなが遊園地、没後 100 年村山槐多展、シンビズム 3 がある。100% 自主のものから他館との連携した展覧会までさまざまである。

(委員) 展覧会を目的及び内容で種類分けして、バランスを見て事業化することはなかなかできないし、やっているケースもあまりない。よくがんばってきたと思う。単年度ではなく 3 年間の中でバランスを取るといった館は聞いたことがある。

(委員) 現役芸術家の労をねぎらうような展覧会の場を設けてもいいのではないか。

- (事務局) シンビズムがその役割を果たしていると思う。また、学芸員はシンビズムに参加したことで、初めて出会う現代芸術家の作品を自分なりに解釈し伝えるための良い訓練の場になった。
- (委員) 長野県児童生徒美術展、上小児童生徒立体等作品展、上小児童生徒版画展などは、子どもアトリエで開催して3年ほど経つ。他の地域からも喜ばれており、観覧者は、美術館の他の活動にも興味を持つことになる。また、大人にも人気があり、子どもたちの作品を通して地域の方に発信できている。
- (会長) 児童生徒の展覧会は、長野県教育会館で開催したこともあるが、土日が使えないため来られない方もいた。美術館で開催すると、子どもたちは親と一緒に来て美術館の展覧会も鑑賞していくので、ここで開催できるのはありがたい。

### (3) 施設利用について

- ・資料に沿い事務局から概要を説明

- (委員) サントミュージゼは市民の憩いの場になっている。施設使用料の減免措置については、東御市でも同じ問題に直面しており見直す方向となった。サントミュージゼの使用料は元々安く、この料金をさらに減免するのは安過ぎるため、思い切って見直すこともいいと思う。
- (会長) 利用団体側にとっては減免してもらえれば次も利用したいという気持ちにはなるが、5~6年経った現在では、見直すことも必要である。各団体は会費で運営しており、減免なしでやり繰りすることも大事なことである。
- (委員) 受益者負担の観点で考えると、料金設定にはある程度の節度が求められるが、利用者に一定の負担を求めることは必要であり公平である。
- (委員) 料金は他館と比較して考えられていると思うので、現状を比較考慮して見直してもいいのではないか。
- (会長) 高校生以下は考慮してもいいのではないか。
- (事務局) 当初、お客様を呼び込むため、使用料を松本市美術館よりも安く設定した。長野市も高いと把握している。交流文化芸術センター運営協議会でも使用料が安いという話が出ており、美術館も含めて見直しが必要だと考えている。また、交流文化芸術センターでは使用料が安いため予約が殺到している状況であり、他の地域の方が使用することでこの地域の方が使用できないという意見も出ている。
- (委員) 光熱費も減免しているのか。
- (事務局) 備品や光熱費については、当初は減免していたが現在は減免していない。
- (事務局) サントミュージゼの収支のバランスを保つことは難しいが、館の管理には多くの税金を使っていることを理解してもらい県内の状況や公民館との差別化を考慮して検討したい。

### (4) 管理運営経費について

- ・資料に沿い事務局から概要を説明

- (委員) 直営分と実行委員会分を合算した事業収入について、例えば美術館と新聞社が実行委員会を作った場合、その売り上げの半分が市の収入になるということか。
- (事務局) 実行委員会の収入は実行委員会の予算内で相殺されるため、市の収入とはならない。合算した事業収入は美術館の売り上げ規模を示す資料である。市の収入は直営分収入のみとなる。
- (委員) 事業費・人件費の実績について、展覧会事業も含めての金額か。

(事務局) 展覧会事業は事業費に含まれており、人件費や備品購入費には含まれていない。

(委員) 事業費に補助金は含まれているのか。事業費は展覧会に応じて決まるのか。

(事務局) 支出に補助金は含まれない。事業費は展覧会に応じて決まる。

(委員) これだけの人員でこの実績を出しており、とても良くやっている。

(事務局) コレクションは美術館の個性を出すものだと思っている。収蔵方針に則りつつ、現代作家の作品を収蔵していくことが課題である。購入作品のリサーチは重要であり、展覧会事業にも影響すると改めて思う。展覧会は、会場が 700 m<sup>2</sup>と手狭なため創意工夫しているが、学芸員のリサーチ力、企画力、経験やネットワークを高めていくためにご意見をいただきたい。

(委員) 山本鼎作品の展示が無い時期に来館者から観覧希望があり、必ず鼎作品を展示しているとのことだが、コレクションにこだわることなく、価値ある展覧会を企画展示室と常設展示室の両方を使用して開催しても良いと思う。丸山晚霞記念館では、企画展を開催するために丸山晚霞の展示が無い期間がある。

(委員) この美術館の学芸員は若手が多い。学芸員のスキルアップについて、動物的な直観や嗅覚の様なセンスは言葉では伝わらない。常に良い展覧会をイメージしつつ経験を積んでもらいたい。

(委員) 他館と連携して巡回展をやることは、情報収集の場となり展覧会の作り方も学べる。

(委員) 展示面積がネックになるのであれば、コレクションとの兼ね合いの中で検討するべきである。

(委員) 新聞社は、美術館と密に連絡を取っており、新聞社同士もネットワークで繋がって絶えずイベント情報が入ってくるため、美術館と相談しながら展覧会を提案することもできる。展覧会事業は、美術に造詣が深い第一人者から意見を求めることも必要だと思うが、社会情勢を把握しつつ若手に入ってもらうことも大切である。

#### (5) その他

(事務局) 第二次上田市総合計画の見直しを行っている中で、子育て支援に重点を置きたいと考えているため、今後は美術館の育成事業を含めて検討していきたいと思う。

(事務局) 第3回協議会は12月16日(水)午前9時30分から予定している。

### 3 閉会(会長)